

古文ドリル：「し」の識別 100問

対象：高校生・大学受験生（共通テスト～難関私大・国公立二次まで） 著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太

はじめに：「し」の正体（5パターン）

古文の「し」は識別問題の頻出テーマ。大きく **5種類** あります。

種類	接続/品詞	判別ポイント	例
① 過去の助動詞「き」連体形「し」	連用形接続	下が体言/「ぞ・なむ・や・か」結び	行きし人／ありけるし所
② サ変動詞「す」連用形「し」	一語のサ変	「す」一語の活用	旅行しけり／勉強したり
③ 副助詞「し」	強調	取り除いても文意が通る	我し思へば／ありとあらゆるし
④ 形容詞シク活用 連用形「～しく」	形容詞	「悲しく」「美しく」など	悲しく泣く／美しく咲く
⑤ 形容詞ク活用 終止形「し」	形容詞	「美し」「高し」など終止	月清し／山高し

識別の鉄則

- 直前の語の活用形を見る
- 連用形＋「し」→ 過去「き」連体形
- サ変動詞「す」一語 → サ変連用形
- 下接語を見る
- 「し」＋体言 → 過去「き」連体形
- 「し」＋「ぞ・なむ・や・か・こそ」 → 過去「き」連体形（係り結び）
- 副助詞「し」は取り除いても文意が通る（強調用法）
- 形容詞のシク活用連用形は「～しく」の「く」が省略される稀な形でなく、通常は「～しく」のまま
- 形容詞ク活用終止形「し」は文末で「～である」と訳せる

最初の20問はこの5パターンの基礎、後半に進むにつれて 過去「き」と完了「つ」の絡み、係り結び、入試レベルへ進みます。

🎯 解き方のコツ (時短テクニック)

「識別の鉄則」は文法的に正しい順序。

こちらは **試験本番で3秒で答えを出す** ための実戦テクニックです。

コツ① 「し」の後ろを最初に見る (鉄板8割パターン)

「し」が出てきたら、まず **直後** に視線を飛ばす。 - 後ろが体言 (名詞) → ほぼ **過去「き」連体形** (例: 行きし人 / 散りし桜) - 後ろが「か / かど / かば」 → 「**しか**」一語、**過去已然形** (例: 行きしかば) - 文末で句点 → **形容詞ク活用終止形** (例: 月清し。山高し。)

ここまでで8割は片付きます。

コツ② 「～し+けり / たり / たまふ / ぬ」が来たら即サ変連用形

「し」の直前が漢語2字以上 (旅行・勉強・出仕・結婚・食事) + 直後が助動詞や敬語なら、**サ変動詞「す」の連用形「し」**。 - 旅行しけり / 勉強したり / 出仕したまふ → 全部サ変連用形

「漢語+し+助動詞」の並びを見たら反射で答える。

コツ③ 「し」を取って意味が通れば副助詞

「し」がどこに入っても文意が変わらない感じがしたら、**副助詞「し」** (強調) を疑う。 - 我し思へば → 「我思へば」でも通る → 副助詞 - 「のみし」「ばかりし」「ぞし」「なほし」 → 副助詞のサイン

「のみ・ばかり・なほ・いま」など、すでに強調語と組んでいたなら副助詞確定。

コツ④ 「～しき / ～しく」は形容詞シク活用の語幹の一部

「美しき」「悲しく」「久しく」のように「し」が**単独で切り出せない**ものは、形容詞シク活用の一部。 - これは「し」の識別問題というより、**ひっかけ**。冷静に「これは語幹だな」と気づくだけでOK。

試験本番でのチェック順序

1. 「し」の **直後** を見る (体言 / かば / 句点 / 引用「と」)
2. 体言が来てたら → 過去「き」連体形で確定
3. 「しか」と続いていたら → 過去「き」已然形で確定
4. 文末・句点なら → 形容詞ク活用終止形 (清し・高し・寒し)

→ この順番で **3秒** で答えが出ます。

よくある引っかけ

- 「漢語+し+助動詞」をサ変と気づけず過去にしてしまう (例: 旅行しけり)

- 「悲しき」「美しく」を「し」の識別と勘違いして答えてしまう（実はシク活用の語幹）
- 「ごとし」「あやなし」「ありがたし」など、**語末に「し」を含む形容詞・助動詞**を「し」の識別と混同する

採点表

- 基礎 (Q1~Q20) : /20
- 標準 (Q21~Q50) : /30
- 応用 (Q51~Q80) : /30
- 入試レベル (Q81~Q100) : /20
- 合計 : /100

【第1部】基礎編 (Q1~Q20)

5パターンを識別する基本問題。

Q1. 次の傍線部「し」を識別せよ。

昔、ありける男のこと。京に行きし人。

Q2. 次の傍線部「し」を識別せよ。

月清し。

Q3. 次の傍線部「し」を識別せよ。

旅行しけり。

Q4. 次の傍線部「し」を識別せよ。

悲しく泣く。

Q5. 次の傍線部「し」を識別せよ。

我し思へば、なほ恋し。

Q6. 次の傍線部「し」を識別せよ。

京に住みし人。

Q7. 次の傍線部「し」を識別せよ。

山高し。

Q8. 次の傍線部「し」を識別せよ。

思案したり。

Q9. 次の傍線部「し」を識別せよ。

我のみし知る。

Q10. 次の傍線部「し」を識別せよ。

風寒し。

Q11. 次の傍線部「し」を識別せよ。

見し夢。

Q12. 次の傍線部「し」を識別せよ。

美しく咲く花。

Q13. 次の傍線部「し」を識別せよ。

帰りし人。

Q14. 次の傍線部「し」を識別せよ。

仕うまつりしこと。

Q15. 次の傍線部「し」を識別せよ。

我ぞし思ふ。

Q16. 次の傍線部「し」を識別せよ。

念じ給ひしを思ふ。

Q17. 次の傍線部「し」を識別せよ。

物悲しき秋の夕暮れ。

Q18. 次の傍線部「し」を識別せよ。

来し方。

Q19. 次の傍線部「し」を識別せよ。

月夜清し。

Q20. 次の傍線部「し」を識別せよ。

散りし桜。

基礎編 /20

【第2部】標準編 (Q21~Q50)

過去「き」と完了「つ」の絡み、サ変との見分け、係り結びを含む応用問題。

Q21. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

行き**しか**ば、知らず。

Q22. 次の傍線部「し」を識別せよ。

美しく眠**し**る。

Q23. 次の傍線部「し」を識別せよ。

あり**し**日。

Q24. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

いざ給へ、行か**せ**たまへ。

Q25. 次の傍線部「し」を識別せよ。

物言ひし人ぞある。

Q26. 次の傍線部「し」を識別せよ。

旅しければ、疲れぬ。

Q27. 次の傍線部「し」を識別せよ。

風強し。

Q28. 次の傍線部「し」を識別せよ。

思ひしことを書きとめぬ。

Q29. 次の傍線部「し」を識別せよ。

春来しを知らず。

Q30. 次の傍線部「し」を識別せよ。

悲しき朝。

Q31. 次の傍線部「し」を識別せよ。

雨降りし夜。

Q32. 次の傍線部「し」を識別せよ。

笛吹きし人。

Q33. 次の傍線部「し」を識別せよ。

我ばかりしおもふ。

Q34. 次の傍線部「し」を識別せよ。

出仕したまふ。

Q35. 次の傍線部「し」を識別せよ。

物言ひしかど、答へず。

Q36. 次の傍線部「し」を識別せよ。

風の音聞こえし。

Q37. 次の傍線部「し」を識別せよ。

寝し夜。

Q38. 次の傍線部「し」を識別せよ。

旅寝し所。

Q39. 次の傍線部「し」を識別せよ。

文を読みしこと。

Q40. 次の傍線部「し」を識別せよ。

露こぼれし葉。

Q41. 次の傍線部「し」を識別せよ。

あひ知りし人なり。

Q42. 次の傍線部「し」を識別せよ。

物書きし手。

Q43. 次の傍線部「し」を識別せよ。

いと美しき花。

Q44. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

風吹きしかば、波立ちぬ。

Q45. 次の傍線部「し」を識別せよ。

都に住みし頃。

Q46. 次の傍線部「し」を識別せよ。

御所に参りし朝。

Q47. 次の傍線部「し」を識別せよ。

知りし事。

Q48. 次の傍線部「し」を識別せよ。

答へし人。

Q49. 次の傍線部「し」を識別せよ。

仕うまつりしかな。

Q50. 次の傍線部「し」を識別せよ。

いまし思ふ。

標準編 / 30

【第3部】 応用編 (Q51~Q80)

係り結び・敬語・引用が絡む応用問題。

Q51. 次の傍線部「し」を識別せよ。

ありと聞きしものを、見ねば信ぜず。

Q52. 次の傍線部「し」を識別せよ。

春来しかど、花咲かず。

Q53. 次の傍線部「し」を識別せよ。

名にし負はばいざ言問はむ都鳥わが思ふ人はありしやなしや。

Q54. 次の傍線部「し」を識別せよ。

行幸したまひしことあり。

Q55. 次の傍線部「し」を識別せよ。

心ぞ思ひし。

Q56. 次の傍線部「し」を識別せよ。

言ひし人こそ思へ。

Q57. 次の傍線部「し」を識別せよ。

あはれと思ひし人。

Q58. 次の傍線部「し」を識別せよ。

春の夜の夢ばかりなる手枕に、かひなくたたむ名こそ惜しけれ——この歌、誰が詠じしぞ。

Q59. 次の傍線部「し」を識別せよ。

名にし負ふ。

Q60. 次の傍線部「し」を識別せよ。

月光清しと仰せらる。

Q61. 次の傍線部「し」を識別せよ。

都にとどまりし人なし。

Q62. 次の傍線部「し」を識別せよ。

物食ひし所。

Q63. 次の傍線部「し」を識別せよ。

結婚したまふ。

Q64. 次の傍線部「し」を識別せよ。

人言ひしかど、無視せり。

Q65. 次の傍線部「し」を識別せよ。

なほし思ふ。

Q66. 次の傍線部「し」を識別せよ。

物思ふ秋ぞ悲しき。

Q67. 次の傍線部「し」を識別せよ。

いみじく美しき。

Q68. 次の傍線部「し」を識別せよ。

帰りしかな。

Q69. 次の傍線部「し」を識別せよ。

嘆きし夜。

Q70. 次の傍線部「し」を識別せよ。

山高しと聞く。

Q71. 次の傍線部「し」を識別せよ。

食事したまふ。

Q72. 次の傍線部「し」を識別せよ。

ありしやなしや。

Q73. 次の傍線部「し」を識別せよ。

よかりしこと。

Q74. 次の傍線部「し」を識別せよ。

春雨降りしかど、花散らず。

Q75. 次の傍線部「し」を識別せよ。

我のみし怒り、人は笑へり。

Q76. 次の傍線部「し」を識別せよ。

詠じし歌、世に伝はる。

Q77. 次の傍線部「し」を識別せよ。

散りし花、また咲くべし。

Q78. 次の傍線部「し」を識別せよ。

笛吹きしぞあはれなる。

Q79. 次の傍線部「し」を識別せよ。

嘆きしかばこそ、目も赤かれ。

Q80. 次の傍線部「し」を識別せよ。

ありし昔。

応用編 / 30

【第4部】 入試レベル (Q81~Q100)

Q81. 次の傍線部「し」を識別せよ。

都にありし人を思ひ出づるに、涙ぞこぼるる。

Q82. 次の傍線部「し」を識別せよ。

月の都に住みし人にやあらむ。

Q83. 次の傍線部「し」を識別せよ。

玉のごとし。

Q84. 次の傍線部「し」を識別せよ。

名にし負はばいざ言問はむ都鳥わが思ふ人はいやしやと (伊勢物語) ——この歌、京を離れし男の心ぞあはれなる。

Q85. 次の傍線部「し」を識別せよ。

いと尊しと人皆涙を流す。

Q86. 次の傍線部「し」を識別せよ。

よしし思はじ。

Q87. 次の傍線部「し」を識別せよ。

詠みし人多かれども、心に残るは少なし。

Q88. 次の傍線部「し」を識別せよ。

我ぞ知る、唐土に渡りし人。

Q89. 次の傍線部「し」を識別せよ。

物したまふ御方。

Q90. 次の傍線部「し」を識別せよ。

あけぼのの空に消えし雲のごとし。

Q91. 次の傍線部「し」を識別せよ。

来し方行く末、つらつら思ふに、悲しきこと多し。

Q92. 次の傍線部「し」を識別せよ。

仏に祈りしかひあり。

Q93. 次の傍線部「し」を識別せよ。

ありがたしと人みな申しけり。

Q94. 次の傍線部「し」を識別せよ。

いみじく悲しき心地す。

Q95. 次の傍線部「し」を識別せよ。

旅寝し夜の夢のさめがてに、月見るほどぞあはれなる。

Q96. 次の傍線部「し」を識別せよ。

もろこしに渡りしかの僧、なほ我が国を恋ふ。

Q97. 次の傍線部「し」を識別せよ。

言ひし人にぞ似たる。

Q98. 次の傍線部「し」を識別せよ。

春の夜の闇はあやなし。

Q99. 次の傍線部「し」を識別せよ。

月夜よし、夜よしと人の告げしかば、出で見れば、げに明るし。

あとがき

「し」の識別は、**過去の助動詞「き」連体形**が圧倒的に多い。 - 連用形+「し」+体言 → 過去連体
- 「しか」と続いたら過去已然形 - サ変「す」連用形は「～し+けり/たり」の形で頻出 - 副助詞は取り除いても文意が通る - 形容詞ク活用終止「し」は文末で「～である」と訳せる

接続を見れば9割は識別可能。残り1割は「ごとし」「いとし」「あやなし」など語幹に「し」を含む語との見分け。

著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太